

< キリストの心を持っている >
コリント人への手紙第一 2:6-16

世界有数の交易都市



きらびやかな町。

欲望渦巻く泥沼のような町。

知識、雄弁さ、権力と自由を愛するコリント人

「しかし私たちは、成熟した人たちの間では知恵を語ります。」 (第一コリント 2:6)

成熟した=テレイオイ「完成した、完全な、完成のために必要なものは何も残っていない」

知恵とは…

- ・神が、世界が始まる前から人間に与えようと決めておられた救いの恵み全体
- ・その恵みの豊かさは、この世の支配者たちが誰一人として知ることができなかった
- ・人の目や耳といった感覚、どんな豊かな想像力によっても思い浮かべることができない

そんなすごい知恵をなぜ「教会になら」語れるというのだろうか？

→ 神の霊が与えられているから

「それ(神の知恵)を、神は私たちに御霊によって啓示してくださいました。御霊はすべてのことを、神の深みさえも探られるからです。…神のことは、神の霊のほかにはだれも知りません。」 (第一コリント 2:10-11)

神の霊を受けたので、神が恵みによって与えてくださったものを知ることができる

→ それは、新しく生まれるということ。

「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国(神の支配)を見ることはできません。(ヨハネ 3:3)」

「…私たちはキリストの心持っています。」 (第一コリント 2:16)

新しく生まれる = キリストの心を持つようになる。

ジャガイモの話、ザアカイの話

神の御霊は自由。神の霊によって新しく生まれた者も自由。

「風は思いのままに吹きます。その音を聞いても、それがどこから来てどこへ行くのか分かりません。御霊によって生まれた者もみな、それと同じです。」
(ヨハネ 3:8)

「あの人みたいになれない。」と悩む必要はない。ただ、新しく生まれたことを知っていたらいい。神の霊を受けていることを知っていたらいい。

「霊的」それは、キリストの心を持っていること。

そして、それは理性的

「御霊に属することは御霊によって判断する (= 観察・分析し判断する) …」 (2:14)

「しかし、私たちはキリストの心 (ヌース) を持っています。」 (2:14)

「心」=ヌース (体の感覚で見抜いたり、知性で理解したり、感じたり、判断したり、決断したりする能力で構成されている心) (英語では mind)

イエス・キリストを信じた人はみんな、キリストの心を持っている、みんな霊的な人だ、ということを中心に刻んで新しい一年を生きてゆきましょう。

